

気象ビジネス推進コンソーシアム 第1回運営委員会議事概要

日時 平成29年4月12日(水) 16:00~18:00

場所 気象庁5階大会議室

出席者

・委員18名中、15名出席。(3名代理出席)

議事概要(発言者の敬称略)

1. 活動内容

(総論)

オンラインでの活動を活性化させて最大限に駆使したい。また、オープンイノベーションの手法も使っていきたい。

大学や学界等のアカデミズムの世界とも今後連携を深めていくべき。

< 1. 人材育成 >

誰のための人材育成かをよく考える必要がある。対象は単一ではなく複数ありうるだろう。

気象データを深く理解して使いこなせる人材についてだけではなく、これまで気象データに縁がなかった人も人材育成の対象にしてはどうか。

何ができるか以前に何があるかが知られていない。課題や技術を持っている人にはそれを教えるだけで解決する。技術が無い人には技術を教えていく。研修をクリアした人は資格をあげる等して、意識付けにしてもらうということもある。

< 2. 新規気象ビジネスモデルの創出 >

(アイデアソン・ハッカソンについて)

会員以外からも広く求めるとともに、賞金等を検討すべき。必要であれば、会員寄付やスポンサーを募り、社賞のような褒賞を検討する。

いいアイデアは買い取るくらいの気持ちが必要。アイデアソン・ハッカソンという枠にこだわらず、課題を持っている方や若手が、アイデアを積極的に試していける場を作りたい。

アイデア・知財を全部共有となると、モチベーションに影響しないか危惧。メーカー・気象会社・気象庁のツールやデータを活用し、一般から新しいアイデアを募集することからはじめてみるのも一案では。

色々なやり方があるので、ハッカソンがよいのか、アプリケーションコンテストの形でやるのがよいのかターゲットや目標をはっきりさせて企画を練っていきたい。データの利活用を進める上で明確な解はないが、データを使って社会を最適化する未来が来ることを信じて試行錯誤していきたい。

VLED としてもアイデアソン、ハッカソンなどで全面的に協力したい。

(その他)

既存のビジネスモデルであっても、なんらかの課題で伸び悩んでいるのでは。気象庁や企業の保有データをオープンにすることや、気象業務法の規制の問題についても議論したい。

データのビジネス活用については、経産省のリーサス；地域経済分析システムが参考になる。

ビジネス活用のためには、気象データの利用は自動処理まで含めて考える必要がある。

< 3 . 活動のプロモーション、会員間のコミュニケーション等 >

(略称・ロゴについて)

略称は WXBC としたい。モールス信号や航空気象において、WX は天気を示すとともに、W と B の掛け算という意味も含めた。気象とビジネスの掛け算で新しいものを作るということ。本略称でいかがか。

(一同了承)

ロゴの作成も行う予定

(HP その他について)

HP を会員同士のものに留めず、積極的に活用すべき。

HP の活用や会合によって、多様なバックグラウンドを持つ会員同士でこういった技術、ニーズがあるかを共有したい。

会員企業を増やすこと、知名度を向上することが大事。マスコミの協力を得ることも重要。

会員相互の交流について、アンケートの他に、あるテーマでレポートを作成・共

有することで、課題やスタンスを共有できるのでは。

2. コンソーシアムの運営について

(運営規則について)

今後の委員会運営・WG 運営のため、新しい活動が始める際の決定プロセスや、知財の扱い等を含めた細則を作る必要がある。

(事務経費について)

今後のコンソーシアムの活動を考えていくにあたっては、予算の裏付けについても考慮する必要がある。

運営委員会や WG 等の場として気象庁内施設を提供。第 2 回ビジネスフォーラムの会場費も気象庁で考えている。それ以外の事務的経費も気象庁負担。

コンソーシアム活動で最も資金が必要な事務局経費、次いでセミナー会場等だが、これについては気象庁様が負担くださるとの話であり、基本的な運営資金は担保されていると言える。ただし、活動の発展にあわせて予算と資金(会費を含めて)を論じる必要があると認識しておくべきと思う。なお、運営委員の報酬や旅費については、事務局提案の通り、支給せず、手弁当で活動を始めことに賛成する。

(その他)

個人からのコンソーシアム入会希望があると聞く。個人会員をどのように扱うか検討すべき。

気象庁としても気象衛星「ひまわり」のシンポジウムや調査の実施に加え、今後は日射量予測 G P V、気象衛星による日射量の実況データの提供を予定している。提供する際には、事前にサンプルを提供して試行的に使っていただくことも検討している。

気象庁が行うデータ提供については、官民の住み分けを意識すべき。

3. 第 1 回セミナーについて

気象庁からの一方向の情報の流れではなく、会員側からセミナーをしていただくような、会員の皆様の貢献を盛り込みたい。

会員の勧誘のため、セミナーはオープンにしたい。

テーマとしては、気象庁のデータがどれだけあるのかについて知りたい人は多い。

わくわくするような、課題に突き刺さるフレーズがあるとよい。

第2回以降については、人材育成 WG にサブ WG を設置するなりして、ターゲットに合わせたセミナーの内容や段取りについて詰めていく必要がある。

4. 今後のスケジュール

規約にもとづき、運営委員会を当面月1回程度開催すること、WGを2つ設置すること、5月にセミナーを開催することについて、議決したい。

(一同了承)

以上